

Tシャツづくり～藍の葉で染める～

堺市立みはら大地幼稚園(大阪府堺市)

藍染めに挑戦！だんだん色が変わっていくよ！

対象：5歳児 今までに3、4歳児で1回ずつ、5歳になって2回染色の経験がある。(実践事例集 vol.3 参照)

【ねらい】

模様づくりをし、出来上がりの美しさやおもしろさを味わう
太陽の光と風で、色の変化していく藍染めの不思議に出会う

【活動の概要】

模様づくり(針と糸で模様縫い)
生葉をもいで、塩もみする
藍染め(乾燥葉)をする



全部もぎや！もったいないで
(葉っぱもぎ)



だんだん汁が出てきたよ

【活動の内容】

まず、藍の生葉染め。大地農園で藍をはさみで刈り取り、広げたござの上で大きなたらいを
囲み藍の葉をもいでいく。たくさんの葉に、塩をふりかけ、もんでいくとだんだん藍の染液が
にじみ出てくる。「うわぁ！こんな色になったー！」子ども達の手も藍色に染まり始める。

染まった手は、3、4日は、取れないけれど、それもおもしろがる子ども達の様子が見られる。

いよいよ、藍染



染め液が仕上がったら、Tシャツをそっとつけてみる。はじめはまだ薄い緑色。お日様にあてる。「おひさん、おひさん！かぜさん、かぜさん！」と、太陽の光と風にあたることによって見る見るうちに、緑色から薄い藍色に変化していく。染め液につける 太陽と風にあてる 染め液につけると何度も繰り返すことで、微妙な変化だが、少しずつ少しずつ深い藍色に染まっていく。



生葉で数回染めた後、乾燥葉で建てた染め液に換えて(建て染め)何度も染める。
「太陽の力がいるの！」と、陰ってきたらみんなで「お日様、おねがい、出てきてよ！」と声をかけることも楽しい。



納得のいく色に仕上がってきたら、水道水に十分にさらす。すると水道水の中の塩素分に反応し、Tシャツがより鮮やかな藍色に変化する。

「すごい、きれい！」何度も何度も染めたり干したりしたがんばりにご褒美。

美しい藍色に染め上がったら、糸をほどいて模様開き。「いいのができた！」「ぼくだけのTシャツや」とオリジナルのTシャツに袖を通し、「見て、見て！」と大喜びで見せて回る子ども達である。

運動会では、この自分で染めたTシャツを着て参加する。青空の下、鮮やかな姿が運動場に色を添える。

これまでの染め液と違い、藍の葉をもいで、塩もみして、自分達の手で染め液をつくり出していくことは、貴重な体験となる。塩をかけることでしんりとなっていく藍の葉の様子や手触りの変化。時間も手先の力も、そして根気もいるこの作業だからこそ、染め液がにじみ出だしたときの感動は大きい。

生葉から乾燥葉へと染め液を換えると、藍の発酵具合によっては、染め液の色が藍色でない。「黄緑色やのに、あおくなるの？」疑問を感じながら、染め液と太陽と風にあてることを繰り返す。「あれ、どんどん色が変わっていくよ」と、増していく藍色の深み、「もっと、もっときれいにしたい！」という願いと、やればやるほど変化していく手ごたえが子ども達を夢中にさせる。太陽と風の力を目で見て感じる事ができるのもいい。さらに、最後に水道水にさらすとまた鮮やかに変化する。

これらの色の変化が化学反応なのだと、大きくなったときにまた出会えるといいなと思う。

みどころ

子どもたちはいろいろな染色の経験を重ねているので、染まることに期待感があり予想をして活動しています。

その子どもたちが、「太陽の光と風で、色が変わっていく藍染め」を全身で体験し、「うわぁ！こんな色になったー！」と感動しながら感じたその「疑問や不思議」は、心に残る経験になったに違いありません。まさにその不思議な出来事できれいに染まったTシャツを着て運動会に取り組んだ姿は、想像以上に誇らしげで鮮やかだったと思われます。

こうして太陽や風によって目に見えて大きく変容する体験をしたことで、「やっぱり太陽はすごい」「風はいろいろなことができる」などと実感できた子どもたちは、その後も風や太陽の光にある「力や不思議」を、遊びの中で様々な感じることができるのではないのでしょうか。